大学出版

10号

'90秋

大学出版部協会

Association of Japanese University Presses

北海道大学図書刊行会
Hokkaido University Press

慶應通信
Keio Tsushin Co., Ltd.

産能大学出版部
Sanno Institute of Business Administration

玉川大学出版部
Tamagawa University Press

中央大学出版部
Chuo University Press

東海大学出版会
Tokai University Press

東京大学出版会
University of Tokyo Press

東京電機大学出版局
Tokyo Denki University Press

東京農業大学出版会
Tokyo University of Agriculture Press

東京理科大学出版会
Science University of Tokyo Press

法政大学出版局
Hosei University Press

放送大学教育振興会
The Society for the Promotion of the University of the Air

明星大学出版部
Meisei University Press

早稲田大学出版部
Waseda University Press

名古屋大学出版会
The University of Nagoya Press

大阪経済法科大学出版部
Osaka University of Economics and Law Press

関西大学出版部
Kansai University Press

九州大学出版会
Kyusyu University Press

大学出版
10号

Fall・1990

読書の周辺・「千古無窮」か「たかだか十年」か――大西昭男 1
'90東京ブックフェア――鎌田靖彦 4
――七月一九日～七月二三日　東京・池袋サンシャインシティ――
一九九〇年度夏期研修会報告――関野利之 7
惣塚一雄
小柳哲明
大学出版部ニュース――12
新刊案内'90・4～'90・9――18
あとがき・一九九〇年度大学出版部協会役員――巻末

大学出版部協会マーク・デザイン　道吉　剛

本小冊子の表示価格は、税込価格です。

読書の周辺

「千古無窮」か「たかだか十年」か

大西昭男
（関西大学学長・文学部教授）

記憶の中で言葉や観念やイメージが、いつの間にか何ほどかの変容を起こしていることに気づくのは私だけのことではないだろう。その時その場の人の顔や言葉の場合なら、目にしたまま、耳にしたままの正確な記憶が頭の中のどこかにきっちりとしまわれてあるわけではないのだから、記憶の中の変容や歪曲を修正することはできない。読んだ本の中の言葉や観念やイメージの場合には、気がついて、調べて、修正することができる。ところが、私には妙な癖があって、折角調べて、記憶違いを修正しても、いつの間にか元どおりの記憶違いのかたちに戻っていることにまた気づく。いや、おおかたは、気づかぬままということになってしまう。われながら始末におえない。頭脳のしわがへんによじれてしまっているのかも知れない。ジグムント・フロイトの創めた精神分析にかければ、夢の中の歪曲や変容の場合に似たケースなのかも知れない。つまり、私の気ままな記憶違いには、それなりの理由があるのかも知れない。

感銘を受けた言葉や観念が、後になってどこをどう探しても見つからない時には私も多少うろたえる。

『論語』の中に、「その人を以てその説を棄てず。その説を以てその人を棄てず」とあると思いこんでいて、しかも私はそれをいわば私の座右銘とさえして来ていたのであった。ある時、『論語』を読み返していて、半分はその通りの表現であり、あと半分は必ずしも私の記憶通りではないこ

とを知った。ところが、その後はまた例によって例の如し。いまも、こうして原稿締め切りに迫られてということもあってだが、しかし、もう一つには、ええい、ままよ、例によって例の如しか、とわざと横着をきめこんで、私の記憶違いをもう一度修正しようとも思わない。孔子様の仰言ろうとしておられたことは、おおかた私の記憶違いのままでも尽くされているのだろう、などとけしからぬ了見でいる。しかし、たしか孔子様の仰言ろうとしたことは、も少し含みのある表現だったようにも思える。しかし、――と、もう一度しかしと元に戻して、四書五経の専門家でもあるまいし、せっかく何十年も記憶違いのままに来たのだから、とやっぱり横着をきめこむことにする。

これまた私の記憶違いのままに胸に刻みつけられている言葉がある。「プラグマチズム」の創始者の一人であるウイリアム・ジェイムズには哲学と心理学とにわたって幾多のすぐれた著述がある。そのどれかの中で――「一つの哲学の背後には一つの気質がある」と言っている、と私は思いこんで来た。ある時、必要があって彼の著作をあれこれと読み返していたら、なるほどそういった趣旨のことはあるところで述べられている。これまた『論語』の場合と同じように、も少し留保のある、も少し含みのある表現となっている。そして、なんとこの場合にも、横着な私は記憶違いをきっちりと修正しなかったようである。いま私の脳裡に刻まれているのは、性懲りもなく元のままの〝There is a temperament behind a philosophy.〟である。われながら、もはや何をか言わんや、である。

さて今、書物のこと、出版のことをあれこれ思いめぐらしていて、ふと思い浮かんだ芥川龍之介の言葉があり、芥川の随筆のあちらこちらを見ていたら、なんと、これまた私の記憶違いの一例であることに気づかされることになった。それも、まるで正反対の意味に取り違えていたのかも知れないことに、さすが横着ものの私も愕然としたのであった。

芥川の『侏儒の言葉』から先ず引くことにする。「藝術」と題して――

畫力は三百年、書力は五百年、文章の力は千古無窮とは王世貞の言ふ所である。しかし敦煌の發掘品等に徴すれば、書畫は五百年を閲した後にも依然として力を保ってゐるらしい。のみならず文章も千古無窮に力を保つかどうかは疑問である。觀念も時の支配の外に超然としてゐることの出来るものではない。我我の祖先は「神」と言ふ言葉に衣冠束帯の人物を髣髴してゐた。しかし我我は同じ言葉に髯の長い西洋人を髣髴してゐる。これはひ

とり神に限らず、何ごとにも起り得るものと思はなければならぬ。

ところが私の記憶の中では、芥川はこう言っている――

「画業は三十年、文業はたかだか十年、その名を残せばよしとしなければならないだろう」

私自身が言うのも気のひけることだが、いかにもまことしやかに聞こえるではないか。この通りのことばではなくても、こういう趣旨のことを芥川がどこかで言っているのではないか、と私はいまだに私の記憶（あるいは記憶違い）に未練を捨てかねている。

文業が十年にして廃るということは凡百の三文文士に関する限り当たっている。芥川自身の場合には、はじめに『芋粥』や『鼻』などほんの一つ二つの短篇を見ただけで、漱石が驚きかつ喜んで、「あゝいふものを是から二三十並べて御覧なさい。文壇で類のない作家になれます」と、文名を保証してくれている。千古無窮か否かは知らず、芥川の文章は私たち戦前・戦中派世代にとってだけでなく、戦後の若者たちにも幅広く読み継がれているようで、日本文化の行く先を思う時、まことに心強い。

ところで、紀伊國屋や旭屋の雑踏を掻きわけ押しわけて書棚にむらがる人たちと、その書棚とを見比べて、はて、これだけの出版洪水の中から、どれだけの本が生き残るだろうか、と考えこまされることがある。売らんかな主義の商業出版は、売れそうにない本は梱包から取り出しもせぬままに小売店から取次店へ直ちに「返本」されてくるという。おそるべき文化消耗の時代である。じっくりと腰を据えて書かれた学術書が、腰を据えて需要を待つ、という大学出版部の行き方こそ出版の正道であらねばならぬ、と私は思う。願わくは、全国津々浦々の潜在的需要者たちに、出版図書の表題だけでなく、そのあらましの内容、少なくとも目次が広く知られるようにしてもらいたい。広く知られ、永く読まれることによって、眞の知遇と眞実の評価にめぐり合い、必ずや、国家社会の、更には世界人類の文化を進展せしめることになるだろう。

かくして文運は「千古無窮」を期することができる。商業出版の売らんかな主義にまかせておいては、私の記憶違いの中の芥川の言葉にあるように、「文業はたかだか十年」ということになってしまうだろう。あるいは一年、いや、返本有効期限のたった三ヶ月ということにもなりかねないだろう。

'90東京ブックフェア

七月一九日～七月二三日
東京・池袋サンシャインシティ

鎌田靖彦
（営業部会・法政大学出版局）

東京ブックフェアは隔年開催で、今回で第四回を迎えた。今回の統一テーマは、『知の大海原―本はわ・れ・らの宝島』と称し、池袋サンシャインシティのワールドインポートマート四階、文化会館の三、四階の計約八七〇〇㎡の展示スペースに、25万冊の図書・雑誌を集め、入場者数も15万名をはるかに越す一大イヴェントに成長しました。

大学出版部協会は、このブックフェアを19加盟出版部の多彩な出版活動と、協会の組織と構成・国際的な交流活動・広報や出版助成・出版物の普及などさまざまな活動をより多くの方々に広く知っていただく場と位置付け、第一回より毎回ブース出展をしてまいりました。

また、大学出版部協会は昨年一一月、所も同じ、サンシャインシティにおいて『世界の大学図書展』を開催し、世界二十数カ国の大学から約三〇〇〇点の出版物とともに、国内の国・公・私立の大学・短大約三〇〇校のご協力を得て大学内での刊行物を一同に会する機会をもちました。そのおり協会加盟出版部の刊行図書の大部分を展示することができました。（この図書展は本年五月、会場を中国・北京市に移し、「第二回　日本・大学出版物展覧会」として開催された。）

今回の東京ブックフェアで協会が確保したスペースは二ブースということもあり、昨年の『世界の大学図書展』以降の新刊図書を中心に、すでに11回・のべ一三〇点を数える〝日本生命財団出版助成図書〟、また既刊書のなかでそれぞれの出版部の代表的な刊行図書等、合わせて六二三点を展示いたしました。

このなかで目を引いたのは、近年のニューメディア対応として登場してきた東京電機大学出版局のＣＤ－ＲＯＭ〈サウンディクシュナリー〉、明星大学出版部の新しい語学テキスト〝中国語Ｉ〟の〈中国語発音テープ〉、東海大学出版会の〈一般海洋学実習ビデオ〉、早稲田大学出版部の〈日本建築画像大系ビデオ〉など、非活字メディアの分野へもスタンスをひろげはじめたことでありましょう。

また、協会の活動を知っていただく資料として、創立25周年を記念して作成した小冊子『大学出版部協会25年の歩み』・『総合図書目録一九八八』（分類別出版部別排列・書

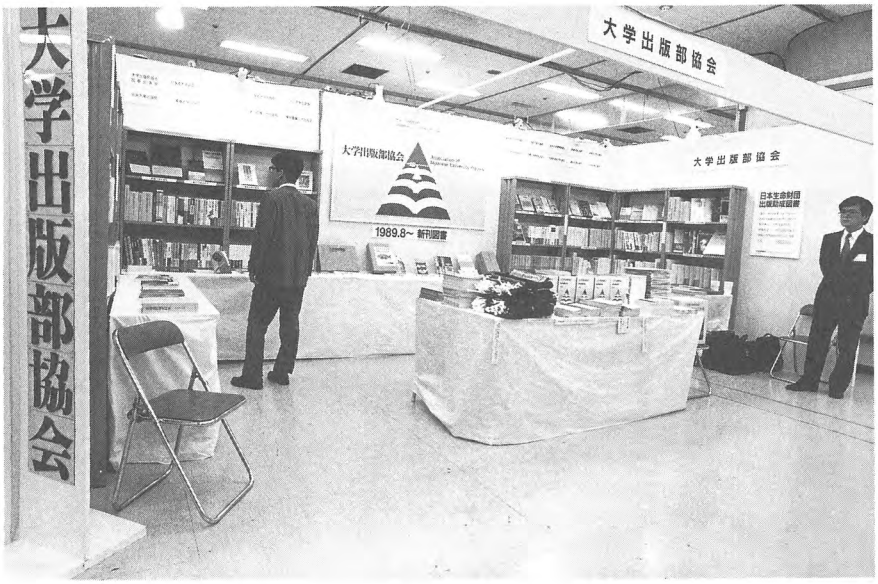
'90年東京ブックフェアでの大学出版部協会ブース(1)

名索引付)。日頃の協会活動をお知らせする『大学出版』(年二回刊)。各出版部の総合図書目録各三〇〇部などを準備し、無償配布いたしました。

協会ブースへは、手もとの集計で五日間合計二六〇六名の来訪者がありました。熱心にメモをとるかた、立ったままページを繰って読みふけるかた、日本の大学出版部の現状と活動状況についていろいろな角度からご質問いただいた韓国の大学内書店の研修・視察団のかたがた、日頃の普及活動で顔なじみにさせていただいている図書館のかたがたなど、目的意識の高い来訪者が多く、用意したカタログ類も最終日には底をついてしまうほどで、ブースへの滞留時間も他のブースに比較して、かなり長かったのではないでしょうか。最も〝本らしい本〟＝専門・研究書を出版する団体としての大学出版部協会への期待と信頼が読書人の間に定着しつつあることのあらわれと言っては言い過ぎでしょうか？

今回のブックフェアでは、ブースにおいでいただいたかたがたに、はじめてアンケートの記入をお願いしてみました。任意記入というかたちをとったため、回収枚数は八五通と少数ではありましたが貴重なご意見をお寄せいただきました。営業部会では、このアンケートをも含め総括会議を持ちましたが次回への反省点として

1、このフェアでは、見本展示のみで即売をしなかった



'90年東京ブックフェアでの大学出版部協会ブース(2)

が〝読みたいときが欲しいとき〟という読者ニーズに応え、やはり即売をはかるべき

2、　協会として、事前のPR活動をもっと活発に行う

3、　〝一般書店の店頭で協会加盟出版部の本になかなか出会えない、もっと展示冊数を多くして欲しい〟との声に、各出版部各々の普及販売活動の強化と、機会をとらえてのブックフェア等〝読者と本の出会いの場〟を指向する

等が討議されました。ブースへおいでいただいたかたがた、アンケートをお寄せいただいたかたがた、この誌上をお借りして心から御礼申しあげます。

静岡・三保の海原での

一九九〇年度夏期研修会報告

関野利之（総括報告・玉川大学出版部）
惣塚一雄（営業部会・東京大学出版会）
小柳哲明（編集部会・慶應通信）

大学出版部協会の、一九九〇年度夏期研修会は、九月六日（木）～八日（土）の三日間、羽衣の伝説で知られる静岡県清水市三保の東海大学社会教育センターの三保研修館で開催された。

この研修館は、協会がはじめて宿泊込みの総会兼研修会を行った発祥の地でもある。そのときは松前会館と呼ばれていた。一九七三年七月であった。ホスト校は東海大学出版会、一泊二日で八校一八名が参加。当時の箕輪幹事長、田口幹事の「アメリカ学術出版事情」報告、中平千三郎氏（東大）の「大学出版部協会の協同作業について」、法政大学出版局・阿部好文氏のケーススタディが議題であった。夏の陽盛りと蚊の襲来が記憶に残る。

今回の研修会は、北は北海道大学図書刊行会から南の九州大学出版会まで初参加の京都大学学術出版会を含めて一七大学四六名。研修館は、東海大学付属機関の一角、海辺に面した松林のなかにある。ホスト校の早稲田大学出版部のメンバーは前夜から泊りこみの設営である。受付、名簿確認を終えたメンバーから順次セミナールームへ集合。山田幹事長の挨拶で、研修会が始まった。

今回の研修会の主な目的は、もちろん協会事業の達成のための方法論の実践にある訳だが、大別すると、

Ⅰ　ケーススタディ、
Ⅱ　編集・営業・刊行助成部会の分科会、
Ⅲ　講演「出版者の権利をめぐって」

となる。

以下、日程を追って整理報告してみよう。

Ⅰ　ケーススタディ　東京大学出版会　編集・製作を中心にして

今までのケーススタディは、加盟大学出版部が交替に、大学紹介、規模概要、特性など出版部の基本方針、路線の展開表明などに終始し、経営内容など相互に斟酌することも多かった。さらに加盟大学の発表も一巡するという事情もあり、今回からはさらにテーマも明確にし、内容的にも密度の濃いものにしたいという幹事会の方針で「編集・製

作」（東京大学出版会のケース）が採りあげられた。

発表は、斎藤至弘・東京大学出版会専務理事が行った。A4サイズの資料五十四葉綴が、全メンバーに配布される。ルーチンワークで使用されている最新のなまの情報がふんだんに提供される。

まず、出版会の概略として目的・組織・規模が紹介され、略史としてデータをベースにした、新刊・新版・復刊・重版・雑誌・リプリントの総刊行額・総売上・人数・一人当刊行額・一人当販売額が示された。なかでも基本原則に基づく活動のスローガンは、協会の大学出版部運動とも最も密接なもので共感するところも少なくないので紹介しよう。

〔刊行〕選び抜かれた第一線の学術書、各分野の最高・最良の教科書、市民と学問をむすぶ教養書をモットーとする刊行体制

〔頒布〕商品の種類に対応した販売方法の徹底化、業務活動のデータの蓄積とデータにもとづく業務活動を軸に、最適の読者を探しだし、最適の本を最適時に提供する合理的な販売システムの確立をめざす販売体制

ついで、企画から刊行までとして、最新刊の升味準之輔著『比較政治　西欧と日本』のケースをとりあげ、(1)企画、(2)進行、(3)定価・部数決定手順、(4)販売・宣伝計画の流れに沿って解説する。詳細なデータ蓄積の上での分析は説得力がある。会議の流れも特長的である。話題からの企画発想をスタートに、和文編集会議、編集企画会議、企画委員会（理事会）による刊行のオーソライズ、定価会議、進行会議、新刊検討会、販売会議に至るまで書式に裏付けられた合理性が明快である。

最後に補足として、部数・定価と採算の考え方、刊行スケジュールの例が示された。

テーマは「編集と製作」であったが、出版会の最高責任者の斎藤氏であるだけに、出版会の活動方針に則した語り口になったのも視野の深さを感じさせるものであった。質疑応答もまじえた三時間余のセミナーは、充実した時間であった。

Ⅱ　分科会

各部会の活動も月例の幹事会にならって月例化しているが、北大や九大まで含めると、春の総会、夏の研修会、暮の臨時総会のときくらいでなかなかチャンスがない。それだけに夏の二泊三日の研修会は実り多いものをとの祈りにも似た感慨で臨むのである。

①編集部会

編集部会では、テーマ発表形式による報告を行った。

まず法政大学出版局（秋田公士）より「広告のケース・

スタディ」の報告。同局では、新刊案内、図書目録、新聞・雑誌広告を三本の柱に、広告・宣伝活動を行っている。拡販を図るということより、本来購入するであろう読者、購入してしかるべき読者に新刊情報を提供することが基本的な目的。したがって新刊については、刊行部数・定価による差別化はほとんどしていないが、これがかえって省力化とブランドイメージの定着に役だっていることを、具体的な広告原稿を資料に説明した。なお、広告製作の外注が久しく検討課題となっているが、情報の正確かつ迅速な伝達に即応できず、小出版部にとっては省力化に結び付かないというのが実感とのこと。

新刊案内は月一回発行、書店への配布による指定配本制への漸進的な移行が主たる目的だが、図書館や定期読者・著訳者にも発送している。図書目録は年二回改訂の総合目録の他、主要叢書の目録を発行している。新聞・雑誌は定期契約が主体。その中から版元と書店をむすぶ広告の一例として京都新聞・河北新報の「教養図書案内」企画の説明があった。

次に慶應通信（小柳哲明）より「知的所有権の周辺」の報告。知的所有権の意義と種類（特許、実用新案、意匠、商標、トレードシークレット、不正競争防止法、著作権等）を説明した。コンピュータ社会の到来とアメリカ経済の変化（相対的低下、モノから技術情報へ）を背景に、知的所有権の強化がなされてきた。一九六七年にはWIPO（ワイポ）（世界知的所有権機関）設置。コンピュータプログラムの保護をめぐる問題は話題を呼んだが、国際的にも著作権法によってその保護がはかられることになった。したがって、プログラムは、その権利の発生には無方式主義（特許権は原則として審査を伴う登録によって権利が発生。著作権は創作時に発生し登録は対抗要件）と五十年間の保護期間（特許は十五年の保護期間）を得られることとなった。一九八五年に日本も著作権法を改正し、プログラム著作権の法制化を行っている。このことは、契約社会の進行やコピー問題とも相俟って、著作権の経済的効果に対する認識をいっそう高める結果となっている。本来、文化の保護育成を狙いとする著作権法に、より企業的・経済的な目的が強調され始めたことの意味は大きい（もちろん、従来から著作者の財産保護としての著作権法の役割は重要であるが）。出版界にもその影響が及ぶであろうし、権利意識の向上によって出版社（企業）と著者との関係に微妙な変化が生ずる可能性もある。

報告はさらに著作権の概要にもふれ、出版契約の種類〔出版権設定契約と出版許諾（複製権の単純許諾、排他的許諾）〕を述べて、その問題意識を午後の椿氏の講演につないだ。

最後に「大学出版」10号の編集内容、「大学出版部協会パ

ンフレット」(試案)の確認をして今回の編集部会を終えた。

②営業部会

営業部会では、普及販売委員会、新刊速報委員会、調査研修委員会という三つの小委員会を設けてきめ細かな活動を行っている。

このうち、まず調査研修委員会では一九八四年につづいて各大学図書館に出版情報の流通についての第二回アンケートを実施することにして、その原案の確認と日程の検討に入った。

同時に普及販売委員会では、かねてより各大学の図書館蔵書調査を行っているが、昨秋の九州地区研修会の成果として、福岡大学、九州産業大学との間で、自動納本の覚書きが成立したことがあらためて報告された。本年一月より協会加盟出版部の新刊書すべてが両大学の図書館において選定・選択の場を与えられ、その多くが蔵書となる新刊書自動納本制度が実質的に軌道にのったわけである。

また、新刊速報委員会では、毎月、各大学図書館に配布されている『新刊速報』(本年一〇月で№54を数える)については、コンピュータリゼーションの時代に合わせるべく模様がえをし、各書籍のＩＳＢＮコードを入れ、Ｂ４判という大きさは踏襲しながらも、紙面を一新することが決まった。

つづいて池袋サンシャイン・シティでの東京ブックフェアでの営業部会としての取組みが報告された。大学出版部協会ブースに来場した人の住所を登録したほか、当日多かった「本の即売をしてほしい」という意見をこれからのブックフェアでは積極的に取入れる方向で考えたい。

なお、本年一一月の研修会の場所は名古屋を予定し、関西・九州につづく第三回の地方研修会として、地元名古屋大学出版会を中心に中京地区に積極的に活動を展開していきたいと考えている。

③刊行助成部会

部会長の山下正氏が、北京国際図書展へ参加中のため中央大学出版部の田中浩氏が部会長を代行した。日本生命財団刊行助成のみでなく、新しい刊行助成を獲得するため発足した部会は、(1)全国の大学に対して刊行助成についての実態調査、(2)現存する助成財団へのアンケート調査を命題としている。

今回は、「学術研究成果助成の現状に関するアンケート実施についての依頼」「助成出版への今後の取り組み方についてのアンケート」文案について検討し、実施の方向へと歩み出した。

Ⅲ　講演「出版者の権利」をめぐって

演者は、医学書院会長で書協の著作・出版権委員会委員長でもある椿孝雄氏である。文化庁の著作権審議会が去る

六月、出版物の複製から出版者を守る権利（版面権）を認める旨の第八小委員会の最終報告書を了承し公表した、その第八小委員会のメンバーでもある。

氏の講演は、著作人格権、著作財産権の基本から著作権者から複製権をゆずり受けて出版する学術出版書の特性を述べることから始まった。

著作権法のなかの出版権の言及が少なく、わずかに三章七一条設定出版権のみが出版界の先輩たちの努力で制度化されている。この出版権設定の制度を廃止して複写複製について出版者に許諾権を与えるという論議もあったが、結局は複写についての出版者の権利については報酬請求権のみを認めるということに落着した。権利の行使については出版者の権利と著作権とが一体となって管理されることが適当と提言されている。ただ電子媒体による複写は将来の問題として残されている。

アメリカ、西ドイツ、カナダなど先進十八国では集中処理機構があり、機能している。日本でも複写についての出版者の権利が法制化されれば、国内出版物のみならず外国出版物の複写使用料も徴収、分配するようになる。

日本複写権センター（仮称）は、著作者・著作権者団体、出版団体などから権利の譲渡、委託、許諾、報酬請求など行うことになるだろう。

著作権法の精神が生かされること、情報は有料であるという意識が浸透することが望ましい。

講話のなかでは具体的な事例と数字をまじえながら話された。近い将来法制化後、権利が発生すればその時点以降の適用になるので学術書などの単行本は何らかの形で改版する必要がでてくるのではないか、と結ばれた。

第一日目の夜は、レストラン三保会館でちょっと豪勢な夕食会、そして翌朝六時から隣接のサッカー場を拝借してソフトボールに興じた。二日目の夜は懇親会で、宴は深夜まで交歓が続いた。

三日目は、東海大学海洋科学博物館を見学した。創設満二十年になるとのこと、東海大学海洋学部卒業の中陣隆夫氏がガイド役に当った。ふだんなら入れない飼育研究室にまで入れてもらい、三五〇種二万の魚たちとの対話を楽しんだ。

北海道大学図書刊行会

■以前、日本生命財団の助成を得て出版された松浦誠・山根正気著『**スズメバチ類の比較行動学**』（一九八四年刊）は、小部数ながら三度版を重ねてきたが、このほどドイツシュプリンガー社から Biology of the Vespine Wasps なる書名で翻訳出版された。初刷り八百。英文への翻訳は松浦・山根両氏。ささやかな文化輸出である■北大附属図書館北方資料室が世界に誇る北辺地域関係の資料を網羅した『**日本北辺関係旧記目録**——北海道・樺太・千島・ロシア』（同図書館編、B5・四七六頁・八七五五円）が完成をみた。従来の類書にはみられぬ貴重な資料が収録され、その種類も江戸時代以来の和洋書のコレクションのほか、写本、古文書、書画、写真、レコード類にまでわたり、それぞれに懇切な注解が付してある。北辺地域史研究に不可決の指針となろう。

慶應通信

この十二月で、小社発行の月刊雑誌「教育と医学」は、通巻四五〇号を迎えます。本誌は、教育・医療・心理・社会の専門学者の集まりである「教育と医学の会」の編集で、これら諸科学の緊密な協力により、人間の教育・健康・生き方などを総合的な視点から考察し、読者に多角的な考え方と幅広い知識を提供しています。そして各種教育機関やカウンセリング・医療・保育など、とくに関連領域の知識を多く必要とされる方々に、長年ご好評を頂いてきました。

以下に本誌の内容を、最近の特集名によってご紹介します。7月＝薬を考える、8月＝時間の教育と医学、9月＝養護教諭と学校保健、10月＝スポーツと健康、11月＝スポーツと心の健康（A5判一〇〇頁、五一五円税込、既刊号の在庫完備）

産能大学出版部

イノベーションの普及の過程とそれが社会、文化、集団に与えていく影響に関する研究の名著『**イノベーション普及学**』（E・M・ロジャーズ著、青池慎一・宇野善康監訳）が五月に刊行された。ロジャーズ教授の二五年間にわたる研究と三千余の研究の集大成である。

企業戦略論の第一人者で日本にも多くの読者をもつH・I・アンゾフの『**最新・戦略経営**』が完成。前著『企業戦略論』が出版されてから二十五年ぶりの全面的改訂である。二十一世紀まで十年足らずを残した現在、企業を取り巻く環境変化を表現するキーワードに対して、企業戦略を構築するための一連のキーワードを提出し、そうした一連のキーワードを包摂した経営の全体コンセプトを四百頁にわたって展開した意欲作である。

玉川大学出版部

◆**久木幸男『日本古代学校の研究』**九二七〇円

旧著『大学寮と古代儒教—日本古代教育史研究』の全面的改訂増補版。身分制学校であった古代学校を、支配層＝貴族の学校である大学寮と被支配民衆の学校に区別してそれぞれの様相を多角的に究明する。

◆H・レールス／長谷川守男訳『**一般教育科学**』八二四〇円

科学としての教育学の全体像を解明し、かつ、その問題設定を批判的に浮彫りにする。細分化される教育学研究に対し、教育学個々の歴史的発展、現在の発展水準を把捉する包括的論究。

◆三輪福松訳『**ベレンソン自叙伝**』二八八四円

九十四歳まで、蔵書五万冊と家をかざる数少ない美術品とフィレンツェの景色をたのしむ日々をえがく。訳は流麗。**朝日新聞**

中央大学出版部

岡田實訳『出産飢饉―現代フランス人口事情―』
ビラバン／デュパキエ　著

出生率の低下が政治・経済・社会・文化に与える悪影響と出生力の伸び悩みの原因を探り、現実にそった人口政策を提言。

定価一八五四円

田村秀夫著『社会思想史の視点―研究史的接近―』

個別テーマごとに、欧米とソ連・東欧における研究史を整理し、総体的把握の視点を具体的に提示する。　**定価四〇一七円**

大淵寛著『出生力の経済学』に日本人口学会賞

中央大学学術図書として一九八八年に出版された本書が、一九九〇年度の日本人口学会賞を受賞した。同著者は『人口論名著選集』による前回の学会奨励賞に続き、二回連続の栄誉に輝いた。　**定価二四七二円**

東海大学出版会

東海大学蔵・桃園文庫影印叢書（全十三巻）が刊行開始されました。現代の国文学研究に画期的な足跡を残した池田亀鑑先生が生涯にわたり収集し、研究の資料ともした古典籍の数々が「桃園文庫」と呼ばれるものです。桃園文庫の存在は国文学者の間では広く知られていましたが、個人蔵書という性格上、ほとんど公開されることなく秘蔵されてきました。池田先生の没後、東海大学に収められた全三千点に及ぶ中から、貴重なものを十三巻に収録。これまで『源氏物語（明融本）Ⅰ・Ⅱ』、『貫之集・伊勢大輔集・周防内侍家集・前斎院御百首』の三巻が刊行されました。ちなみに桃園文庫がその全容をみせるのは三十五年ぶりで、解題は故人に最もゆかりのある国文学者が担当。

大学出版部ニュース

東京大学出版会

最近の発達心理学とその周辺領域の研究の深まりによって、人間の可能性・人間のすばらしさが再認識されている。

その研究の成果をわかりやすく書き下ろしたシリーズ「**人間の発達**」全12巻（定価一八五四～二〇六〇円）の刊行が六月から始まっている。

①内田伸子『**子どもの文章**』
②麦島文夫『**非行の原因**』
③岡崎陽一『**家族のゆくえ**』
④西平直喜『**成人になること**』
⑤三宅和夫『**子どもの個性**』
⑥箕浦康子『**文化のなかの子ども**』

以下続刊で『ことばの発達』『発達とはなにか』『算数と学校文化』『サルの生涯発達』『子どもと音楽』『発達と文化』。

教育現場や母親への訴えと共に、若い研究者への研究の呼びかけには迫力が感じられる。

東京電機大学出版局

『スーパートレイン―夢をかなえる超電導リニアモーターカー』
荻原宏康他著　定価一七〇〇円

新幹線が営業速度でフランスのＴＧＶに抜かれた後、鉄道関係者の期待はリニアモーターカーに集まっている。著者たちは超電導応用の研究者であり、大の鉄道ファンでもある。

「各国のプロジェクトの現状や技術的な問題点についても詳細にまとめており、〈中略〉全体に写真を多く使っていてこれを見ていくだけでも楽しい」

『図解―ＳＤＮ入門』
都丸敬介著　定価一五四五円

「コンピュータ技術者や、情報通信システムの利用者を対象としている。複雑な数式を使わず、図表で電話交換網のデジタル化といったＩＳＤＮ導入に必要なことがらを説明している」

（日経産業新聞書評より引用）

東京農業大学出版会

◆『21世紀の農業展望―国際化における北海道畑作の展望』

本書は、東京農大が地域各々の農業問題を考えるために実施しているシンポジウムを集録したもの。このシンポジウムでは南網走の畑作営農集団の事例を中心に展開されている。今後の北海道農業は、これまでの第一次生産基地ではなく、高次加工基地、食品を含めたより総合的な基地としての畑作農業を展開すべきであると提言している。定価五〇〇円。

◆『文明開花と造園』針ヶ谷鐘吉著、定価三〇〇〇円。

本書は、わが国の開化期に、海外渡航者達が書き残した記録を蒐集・比較・整理しての論評が中心となっている。○幕末明治の世相と造園への反響、○開化期の海外都市公園論、○開化期海外渡航者の西洋庭園観。

東京理科大学出版会

月刊誌「SUT」は、理科大の英文名の頭文字で、B5判、七〇頁位のもので、簡単に科学知識が得られるよう毎号特集を組んでいたが、本年からは、次の項目を取り入れることとなった。

1　科学・技術と人間のふれあいについて
2　学生と教職員のふれあいを深める
3　学生の就職指導の参考になる記事を掲載する
4　大学の学風について父兄の理解を求める

特集記事（最近号）

●わが国の理工学高等教育
●就職幹事座談会
●大学生活を振り返る
●企業の求める人間像
●大学院の意識現状
●物理学のすすめ
●国際政治と環境問題

法政大学出版局

星名定雄著／四六判二五七五円

▼『郵便と切手の社会史』〈ペニー・ブラック物語〉とサブタイトルにある。ヴィクトリア女性の肖像をモチーフにした黒一色の一ペニー切手が誕生したのは百五十年前の一八四〇年。この世界最初の切手、ペニー・ブラックに熱い思いを込めてイギリスの郵便事情、郵便前史が語られる。

産業革命でイギリスが一大飛躍し激動した時代。「社会にとって郵便は血液のようなもの。産業革命を補完する形で郵便制度が近代化されたとみると、これは捨てがたい研究テーマでした」と〔著者は〕いう。

切手の周囲のギザギザ（目打ち）、消印の話、切手付き封筒の話題なども満載され、中身の濃い社会史だ。〔カラー8頁〕

読売新聞〈この本・この人〉より

明星大学出版部

福永安祥編著『現代社会教育論』定価二八八四円

本書は、社会的背景をふまえて、社会教育の概念、歴史、現代の課題、社会教育の実践などを中心に、基本的な理論と現状を説明し、分析した書である。社会教育の基礎を研究しようとする人々にとっては好書。

志村嗣生ほか『中国語I』定価一九五七円。教科書テープ八二四円、練習帳テープ六一八円

本書は、発音編六課、本文編一五課から構成され、大学での第二外国語の学習目的と、その基礎となる文型の習得を目的に刊行された。また、教科書と練習用テープがそれぞれあるので初級者にはうってつけの教科書。

また、初級者にとって最低限必要とされる一〇〇〇字を選び、『中国語用例辞典』を現在執筆中。

放送大学教育振興会

▼秋色の深まりとともに、恒例の最繁忙期に突入。明春三月には69点の新刊と二百余点の重版を同時刊行の予定▼学生数の累増に伴う多様な学習要望にこたえるために、新設講座にも時代の流れを先取りしたユニークなものが増えているのが特長。たとえば、グルメの時代に食文化の変容とあり方を説く『**食と栄養の生態学**』（鈴木継美編著）、家族のあり方を考察した『**家族関係論**』（望月嵩著）や『**現代家族の社会学**』（森岡清美著）、新しい動きに対応する『**現代社会とサービス産業**』（磯部浩一・古郡鞆子共著）『**情報工学**』（都倉信樹著）『**環境とエネルギー工学**』（牛山泉著）『**財務管理**』（村松司叙・古川浩一共著）等々▼十一月、京都で開催の「第2回生涯学習フェスティバル」に協賛参加。連日、多数の入場者で賑った。

早稲田大学出版部

▼中野幸一編「源氏物語資料影印集成／全12巻」（定価各一五四五〇円）源氏物語研究に不可欠の古注・梗概・俗訳・評論・辞書などの文献を収録する。研究史・享受史を彩る典籍の一大宝庫である。本年11月全巻完結。▼大井邦雄監修「エリザベス朝喜劇10選／全10巻」（定価各一四四二円）が完結した。シェイクスピア研究に新しい地平を拓く試みとして評判を呼び、去る7月には第9巻「野鴨追い」が東京・渋谷のジァンジァンで上演された。全巻取揃え発売中。▼犬塚直夫・伊藤糾次編「エレクトロニクスと材料／全5巻」（平均定価二五〇〇円）新たにこの分野と取り組む学生・研究者を対象に、半導体デバイス、薄膜の成長・評価・プロセッシングなどの基本と問題点を分りやすく解説する。既刊2冊。

名古屋大学出版会

▼V・ファリアス著／山本尤訳『**ハイデガーとナチズム**』（定価四四二九円）今世紀最大の哲学者M・ハイデガーが初期から一貫して戦闘的なナチであったことを、彼の晩年の弟子が、12年にわたる資料収集の結果、圧倒的な説得力をもって実証する。ヨーロッパで大論争を巻き起こした問題の書、待望の邦訳。▼草間秀三郎著『**ウィルソンの国際社会政策構想—多角的国際協力の礎石—**』（定価五六六五円）国際連合の新機能として重要性が増している多角的国際協力を、ウィルソンの国際社会政策構想の発展として跡づける。▼服部育生著『**企業結合と独禁法—比較法的考察—**』（定価五六六五円）企業結合（M&A）に対する独禁法上の規制を、米国法・西独法を中心に、比較法的視点から包括的に考察する。

大阪経済法科大学出版部

大阪経済法科大学アジアフォーラム〈3号〉『**発展するアジア経済**』。中国人民大学　方生『中国の対外経済開放にかんする諸問題』が第一論文。対外開放は現在提起されている経済戦略的方策であり、「社会主義の初級段階」の基本路線の重要な構成部分である。この十年来、都市と農村での経済改革によって得られた成果、国民経済の急速な発展、人民生活の漸次的改善は、いずれも対外経済開放の実行と不可分である。現代資本主義および対外経済開放についての正しい認識にもとづき、沿海と内陸との関係、輸入と輸出との関係などが論じられる。また『九〇年代の韓国企業』韓義泳、『韓国労資関係の現状と展望』金植鉉は、建国以来の発展をふまえて今後の問題点をのべている。

関西大学出版部

▼奥村郁三・薗田香融共編『令集解―官位令　職員令―語句索引』（定価六五〇〇円）本書は主として官位令・職員令に付された『令集解』の文の語句を精選した画期的、実践的索引である。いくつかの助字と引用漢籍部分の語句に校訂を施して採録した点にも特徴がある。令集解全編の読解に大きな貢献を果たすだろう。▼多田敏男訳『ヘンリー・ジェイムズ〈ニューヨーク版〉序文集』（定価六〇〇〇円）かつて批評家R・P・ブラックムアは、これらの序文を集めて『小説の技巧』という題の本にして出版。英米の文壇に大反響を呼び起こした。これはその本に基づいたわが国で初めての完訳である。ジェイムズの愛読者だけでなく、一般の文芸理論に関心を持つ人にとっても貴重な基本図書と言えよう。

九州大学出版会

▼鎗田英三『ドイツ手工業者とナチズム』四一二〇円。「ヒトラーやナチズムはすでに過去のものとなってしまったのだろうか。ナチズムはある意味で「魅惑的」な思想体系であり、再来する可能性がある。このような問題意識をもち、それを過去の貴重な教訓として学び、真にほうむり去るための研究」（毎日新聞評）。「最近の西ドイツにおけるネオ・ナチの共和党の地方議会進出や、東ドイツにおけるユダヤ人排撃の兆候などをみると、本書のような歴史的考察に学ぶ意義は大きい」（西日本新聞・原田溥氏評）▼八木沼・平嶋・大熊『クモの学名と和名』六一八〇円。『蝶の学名』、『学名の話』に続き、最近の日本クモ学のめざましい発展に呼応して、斯界の重鎮がクモの学名の語源と和名の起源を縦横に解説。

大学出版部ニュース――

＊　＊　＊

新刊案内 '90・4～'90・9

（表示価格は税込価格です）

■北海道大学図書刊行会

ペプチド栄養　桐山　修八・荒井　綜一編　三〇九〇円
教材憲法判例〈第3版〉　中村・秋山・千葉・常本編　二八八四円
営農集団と農協　矢崎　俊治　三〇九〇円
ユーゴ自主管理取引法の研究　伊藤　知義　四九四四円
日本北辺関係旧記目録　北海道大学附属図書館編　八七五五円
魔法の角笛―ドイツ文学の森に遊ぶ―　北海道大学放送教育委員会編　一九五七円
生体工学―医療への新たな展開―　北海道大学放送教育委員会編　一八五四円

■慶應通信

合理的な決定とは何か―国境をこえた「自由と平等」の均衡解―　藤川吉美　三二九六円
各国政治制度概説　中村勝範編　二〇〇〇円
領土〈日本の国際法事例研究3〉　国際法事例研究会　三六〇五円
政治理論と政治思想　多田真鋤　三九一四円
ボリビアにおける日本人移住者の環境と健康〈慶應義塾大学地域研究センター〉　石井裕正／津金昌一郎編　一〇〇〇円

■産能大学出版部

息子の出世は母親しだい　金子春子　一三八〇円
経営革新のための能力開発　早津明彦　一八〇〇円
新・管理者学　水井正明　一三八〇円
問題解決のOJT　吉田百秀　一七〇〇円
新・企業の革新　産能大学パソコン研究会　一三〇〇円
提案型セールスの進め方　山口弘明　一三八〇円
戦略参謀の時代　二味　巌　一八〇〇円
最新・戦略経営　H・I・アンゾフ著　中村元一／黒田哲彦共訳　三二〇〇円
イノベーション・普及学　E・M・ロジャーズ著　青池慎一／宇野善康監訳　七八〇〇円
マーフィーの超感覚力で成功する　J・マーフィー著　加藤明訳　一五〇〇円
説得の交渉術　矢部正秋　一三八〇円
ヒット企画が出せる本　広野　穣　一五〇〇円
企業家型管理者の時代　柳孝一／西脇隆　一五〇〇円
最新　動作・時間研究　R・バーンズ著　大坪檀訳　一八〇〇〇円
独創学入門　中川昌彦　二〇〇〇円
ディベート能力の時代　北岡俊明　一五〇〇円
トヨタの組織革新を考える　西田耕三　二三〇〇円
広告国際比較とグローバル戦略　八巻俊雄　二八〇〇円
「日本株式会社」の崩壊　L・ホラーマン著　益戸欽也訳　二〇〇〇円

■玉川大学出版部

外国語の教え方　D・ラーセン＝フリーマン／山崎真稔・高橋貞雄訳　二八八四円

近世教育史料の研究　多田　建次　四六三五円
日本古代学校の研究　久木　幸男　九二七〇円
混声合唱アルバム―高等学校用―　玉川学園編　一二三六円
ペスタロッチー研究―職業教育と人間教育―　虎竹　正之　三六〇五円
日本語の知識―資料編―　長野　正編　二五七五円
哲学の立場―人間・自然・神―　三井　善止　二五七五円
ベレンソン自叙伝―肖像画のスケッチ―　B・ベレンソン／三輪福松訳　二八八四円
英語劇指導マニュアル　佐野正之編著　二八八四円
一般教育科学　H・レールス／長谷川守男訳　八二四〇円
美術教育の歴史と哲学　S・マクドナルド／中山修一・織田芳人訳　九二七〇円
学歴産業―学位の信用をいかに守るか―　D・A・スチュワート&H・A・スピル／喜多村ほか訳　三二九六円
行ってみたい遠くの小さな美術館　保坂　清　一六四八円

■中央大学出版部

二〇世紀後半のヨーロッパ文学　中央大学人文科学研究所編　三九一四円
比較法の方法と今日的課題　日本比較法研究所編　三〇九〇円
法律家を目指す諸君へ―一九九〇年度版―　中央大学法職講座運営委員会編　一五四五円
〔三訂〕イギリス法入門　高窪　貞人　二〇六〇円
出産飢饉―現代フランス人口事情―　ビラバン／デュパキエ／岡田實訳　一八五四円
社会思想史の視点―研究史的接近―　田村　秀夫　四〇一七円
電磁回路理論序説　大類　浩　二八八四円
自動車産業の国際化と生産システム　中央大学経済研究所編　二五七五円

■東海大学出版会

確率論の応用〈パポリス応用確率論③〉　A・パポリス／垣原・西・根本訳　三六〇五円
日本産蝶類幼虫・成虫図鑑Ⅰ　タテハチョウ科　手代木　求　一八五四〇円
パソコン COBOL プログラミング〈マイコン活用シリーズ〉　加藤　昭　二〇六〇円
教養のための天文・宇宙データブック　比田井・寿岳・高瀬編著　一五四五円
トランスフォーメーションの記号論〈記号学研究⑩〉　日本記号学会編　二八八四円
ありがとう海の仲間たち　中村　征夫　四五三二円
CASL 入門　市川・太田・大津・長江　二〇六〇円
花々の染め帳　足田　輝一　二〇六〇円
海洋技術者のための流れ学　宇野木・斎藤・小菅　四一二〇円
SPICE による電子回路の基礎　小高・野島・佐藤　二五七五円
源氏物語（明融本）Ⅰ〈桃園文庫影印叢書〉　石田穣二解題　二五七五〇円
政策決定の理論〈現代の政治学シリーズ①〉　白鳥　令編　三二九六円
続・日本全国沿岸海洋誌　日本海洋学会沿岸海洋研究部会編　二〇六〇〇円
源氏物語（明融本）Ⅱ〈桃園文庫影印叢書〉　石田穣二解題　二五七五〇円
貫之集・伊勢大輔集・周防内侍家集・前斎院御百首〈桃園文庫影印叢書〉　稲賀敬二解題　二二六六〇円
松前重義　その政治活動Ⅲ　編纂委員会編　三六〇五円

天敵と農業　大串　龍一　二八八四円
レスピラトリー・ケア・レビュー　呼吸療法指針
S・ビショップ&N・ケルスィー／古賀俊彦訳　一二三六〇円

■東京大学出版会

戦後政治と日米関係　樋渡　由美　五六六五円
世界社会のイメージと現実　古城利明編　六五九二円
日本の株価・地価　三輪芳朗・西村清彦編　三六〇五円
金融論　堀内　昭義　二五七五円
住宅政策と社会保障　社会保障研究所編　四六三五円
地域研究入門　鈴木　一郎　二五七五円
遺伝子工学から蛋白質工学へ〈UPバイオロジー81〉　村上和雄・堀比斗志　一四四二円
帝国議会貴族院委員会速記録・昭和編1　国立国会図書館所蔵　一二三六〇円
帝国議会衆議院委員会議録・昭和編1　国立国会図書館所蔵　一六四八〇円
大日本史料　第三編之一　東京大学史料編纂所編　一三三九〇円
大日本史料　第三編之二　東京大学史料編纂所編　一三三九〇円
日本女性生活史1　原始・古代　女性史総合研究会編　二四七二円
憲法政治の転換　小林　直樹　二六七八円
資料　戦後日本の経済政策構想　全三巻　有澤廣巳監修・中村隆英編　二五七五〇円
人間行動の計量分析　柳井晴夫・岩坪秀一・石塚智一編　六一八〇円
現代日本の階層構造3　教育と社会移動　菊池城司編　二八八四円
ニューメディアと社会生活　竹内郁郎・児島和人・川本勝編　三六〇五円
アクティブ・マインド　佐伯胖・佐々木正人編　二四七二円
生殖生物学入門〈UPバイオロジー82〉　舘　鄰　一六四八円
帝国議会貴族院委員会速記録・昭和編2　国立国会図書館所蔵　一二三六〇円
帝国議会衆議院委員会議録・昭和編2　国立国会図書館所蔵　一六四八〇円
大日本史料　第三編之三　東京大学史料編纂所編　一三三九〇円
大日本史料　第三編之四　東京大学史料編纂所編　一三三九〇円
Evolution of the International Monetary System　鈴木淑夫・三宅純一・岡部光明編　七七二五円
子どもの文章〈シリーズ人間の発達1〉　内田　伸子　二〇六〇円
非行の原因〈シリーズ人間の発達2〉　麦島　文夫　二〇六〇円
日本女性生活史2　中世　女性史総合研究会編　二四七二円
近代日本の土地法観念　川口　由彦　八二四〇円
近代日本の地方自治　大石嘉一郎　四九四四円
日米経済の逆転　石崎　昭彦　一八五四円
日本の企業と産業組織　三輪　芳朗　三九一四円
高齢化社会の経済学　金森久雄・伊部英男編　五一五〇円
イネの育種学〈UPバイオロジー83〉　蓬原　雄三　一四四二円
帝国議会貴族院委員会速記録・昭和編3　国立国会図書館所蔵　一二三六〇円
帝国議会衆議院委員会議録・昭和編3　国立国会図書館所蔵　一六四八〇円
大日本史料　第三編之五　東京大学史料編纂所編　一三三九〇円
大日本史料　第三編之六　東京大学史料編纂所編　一三三九〇円
Cardiomyopathy Update 3　関口守衛・E. J. G. Olsen 編　二〇六〇〇円
Education and Examination in Modern Japan　天野　郁夫　五五六二円
家族のゆくえ〈シリーズ人間の発達3〉　岡崎　陽一　一八五四円
日本女性生活史3　近世　女性史総合研究会編　二四七二円

ソ連現代政治〔第2版〕　下斗米伸夫　二〇六〇円
ガットと日本農業　佐伯　尚美　三二九六円
アジア新工業化と日米経済　中川信義・森澤恵子編　三九一四円
日本の企業会計　醍醐　聰　五五六二円
東京・大阪〈世界の大都市7〉　大阪市立大学経済研究所編　三九一四円
情報と自己組織性の理論　吉田　民人　四一二〇円
高度情報社会のコミュニケーション　東京大学新聞研究所編　七〇〇四円
新時代の海の利用　藤井清光・田中彰一　二五七五円
帝国議会貴族院委員会速記録・昭和編4　国立国会図書館所蔵　一二三六〇円
帝国議会衆議院委員会議録・昭和編4　国立国会図書館所蔵　一六四八〇円
大日本史料　第三編之七　東京大学史料編纂所編　一三三九〇円
大日本史料　第三編之八　東京大学史料編纂所編　一三三九〇円
哲学入門　藤本隆志　二二六六円
成人になること〈シリーズ人間の発達4〉西平　直喜　二〇六〇円
日本女性生活史4　近代　女性史総合研究会編　二四七二円
現代日本の階層構造4　女性と社会階層　岡本英雄・直井道子編　二六七八円
比較政治　升味準之輔　四九四四円
東條内閣総理大臣機密記録　伊藤隆・広橋真光・片島紀男編　九八八八円
地球物理概論　小嶋　稔編　四九四四円
帝国議会貴族院委員会速記録・昭和編5　国立国会図書館所蔵　一二三六〇円
帝国議会衆議院委員会議録・昭和編5　国立国会図書館所蔵　一六四八〇円
大日本史料　第三編之九　東京大学史料編纂所編　一三三九〇円
大日本史料　第三編之十　東京大学史料編纂所編　一三三九〇円
子どもの個性〈シリーズ人間の発達5〉　三宅和夫　一八五四円
日本女性生活史5　現代　女性史総合研究会編　二四七二円
チトクロムP-450〈UPバイオロジー84〉　武森重樹・小南思郎　一六四八円
土〈東京大学公開講座51〉　有馬朗人編集代表　二四七二円
未来論〈シリーズ人間と文化5〉　木村尚三郎編　二四七二円
未来の構想〈シリーズ人間と文化6〉　竹内　啓編　二四七二円
データ・世界経済　奥村・森田・清水・柳田編　二四七二円
ドイツ現代法の基層　村上　淳一　三八一一円
近代中国の国際的契機　浜下　武志　四九四四円
日本古代の国家と都城　狩野　久　五九七四円
分子発生学　塩川光一郎　三七〇八円
バイオメカニズム　10　バイオメカニズム学会編　一八五四〇円
帝国議会貴族院委員会速記録・昭和編6　国立国会図書館所蔵　一二三六〇円
帝国議会衆議院委員会議録・昭和編6　国立国会図書館所蔵　一六四八〇円
大日本史料　第三編之十一　東京大学史料編纂所編　八二四〇円
大日本史料　第三編之十二　東京大学史料編纂所編　八二四〇円
大日本史料　第三編之十三　東京大学史料編纂所編　八二四〇円
大日本史料　第三編之二十二　東京大学史料編纂所編　五九七四円
大日本史料　第五編之二十八　東京大学史料編纂所編　六三八六円
大日本史料　第六編之四十一　東京大学史料編纂所編　七四一六円
大日本史料　第十一編之十九　東京大学史料編纂所編　八〇三四円
大日本古文書　醍醐寺別巻三　東京大学史料編纂所編　三九一四円
大日本近世史料　広橋兼胤一　東京大学史料編纂所編　六五九二円
大日本近世史料　細川家史料十二

大日本近世史料　市中取締類集十九　東京大学史料編纂所編　六五九二円
日本関係海外史料　イエズス会原文編之一　東京大学史料編纂所編　八四四六円
東京大学史料編纂所編　六五九二円

■東京電機大学出版局

図解　ＩＳＤＮ入門　都丸　敬介　一五四五円
図解　第二種電気工事士テキスト　渡辺敏章他七名　二五七五円
特種情報処理試験の徹底研究〔第2版〕　日本ユニシス情報処理システム研究会編　二五七五円
ソフトウェア通論Ⅱ〈新情報テキスト〉　佐々木秀夫監修　二二六六円
量子力学概論〈理工学講座〉　篠原　正三　二〇六〇円
システム監査試験の徹底研究〔第2版〕　日本ユニシスシステム監査研究会編　二二六六円
基礎と演習　機械力学　三船博史・一瀬謙輔　二四〇〇円
図解　関係法規による電気工事の施工法必携　窪松生久男　一七〇〇円
標準Ｃ　基礎コース　杉山　行浩　二〇六〇円
標準Ｃ　発展コース　杉山　行浩　二〇六〇円
図解Ｚ80　マイコン応用システム入門　ハード編　柏谷英一・佐野羊介・中村陽一・浅野健一　二六七八円
第二種情報処理試験全問題解答集〔'90秋季版〕　若山芳三郎　二五七五円
イラストで学ぶ　でんき電気でんき　二七五〇円
改訂　演習機械設計の考え方・解き方Ⅰ〈わかりやすい機械教室〉　須藤　亘啓　二〇六〇円
ヒューリスティックＣプログラミング　ビギナーズコース　黒田　康太　二二六六円
教養流れの力学（上）―流れの力学史―　細井　豊　一五四五円
自動車整備の基礎Ⅰ　基礎編　入戸野・吉澤・吉成・渡辺　二〇六〇円
自動車整備の基礎Ⅱ　エンジン編　入戸野・松下・吉澤・吉成・渡辺　二七五〇円
第一種情報処理試験全問題解答集〔'91年版〕　二二六六円

■東京農業大学出版会

■東京理科大学出版会

■法政大学出版局

熱狂―カントの歴史批判―　Ｊ・－Ｆ・リオタール／中島盛夫訳　一八五四円
小説の精神　Ｍ・クンデラ／金井　裕・浅野敏夫訳　一八五四円
マスコミの受容理論―言説の異化媒介的変換―　佐藤　毅　三〇九〇円
北極グマの四季　Ｔ・Ｊ・コッホ／喜多元子訳　一四四二円
外国人労働者と人権―法政大学現代法研究所叢書10―　江橋　崇編　二四七二円
現代かたぎ考　福田　定良　二四七二円
フィヒテ―シェリング往復書簡　Ｗ・シュルツ解説／座小田豊・後藤嘉也訳　二〇六〇円
動物のパートナーたち―共生と寄生の物語―　Ｐ・ストリート／高橋景一・村上　彰・長橋　捷訳　一八五四円
現代演劇としてのユージン・オニール　―法政大学第13回国際シンポジウム―　黒川欣映編　二三六九円
ヴィーコ自叙伝　Ｊ・ヴィーコ／福鎌忠恕訳　四三二六円
出来事と危機の社会学

E・モラン／浜名優美・福井和美訳　四九四四円
宮廷風恋愛の技術
アンドレアス・カペルラヌス／野島秀勝訳　二八八四円
野蛮―科学主義の独裁と文化の危機―
M・アンリ／山形頼洋・望月太郎訳　二六七八円
買い物の社会史
M・ハリスン／工藤政司訳　一九五七円
冒険の文学
P・ツヴァイク／中村保男訳　二四七二円
民法 5 ―債権各論―
内山 尚三　二四七二円
宿命の戦略
J・ボードリヤール／竹原あき子訳　二四七二円
記号と夢想―演劇と祝祭についての考察―
A・シモン／岩瀬孝監修／佐藤実枝・他訳　三九一四円
手と精神
J・ブラン／中村文郎訳　二五七五円
雑誌 同時代55号 ―特集〈追悼・矢内原伊作〉―
黒の会編　一五四五円
郵便と切手の社会史―ペニー・ブラック物語―
星名 定雄　二五七五円
平等原理と社会主義
L・シュタイン／石川三義・石塚正英・柴田隆行訳　五九七四円
死にゆく者の孤独
N・エリアス／中居 実訳　一八五四円
知識人の黄昏
W・シヴェルブシュ／初見 基訳　二〇六〇円
動物の第六感
M・バートン／高橋景一訳　二〇六〇円
中世社会の構造
C・ブルック／松田隆美訳　一六四八円
種子島の民俗Ⅱ
下野 敏見　七五一九円

■明星大学出版部
現代社会教育論 福永安祥編　二八八四円

■放送大学教育振興会（○印はビデオ・＊印は別売テキストあり）
○＊住居Ⅲ―住計画論― （VHS15巻セット・1巻45分）
清家 清・本間 博文　三〇〇〇〇〇円
○＊衣生活概論 （VHS15巻セット・1巻45分）
矢部 章彦　三〇〇〇〇〇円
○＊会計総論 （VHS15巻セット・1巻45分）
江村 稔　三〇〇〇〇〇円
○＊人間工学 （VHS15巻セット・1巻45分）
加藤 一郎　三〇〇〇〇〇円
○＊都市計画 （VHS15巻セット・1巻45分）
石原 舜介・阪本 一郎　三〇〇〇〇〇円
○＊ドイツ語Ⅰ （VHS15巻セット・1巻45分）
辻 瑾・中山 純　三〇〇〇〇〇円
○＊ドイツ語Ⅱ （VHS15巻セット・1巻45分）
辻 瑾・中山 純　三〇〇〇〇〇円
○＊JAPANESEⅠ （VHS15巻セット・1巻45分）
A＝アルフォンソ・西原 鈴子・新美 和昭　三〇〇〇〇〇円
○＊JAPANESEⅡ （VHS15巻セット・1巻45分）
A＝アルフォンソ・西原 鈴子・新美 和昭　三〇〇〇〇〇円
○＊植物の生理 （VHS15巻セット・1巻45分）
増田 芳雄　三〇〇〇〇〇円
○＊経営管理 （VHS15巻セット・1巻45分）
森本 三男　三〇〇〇〇〇円
○＊マーケティング論 （VHS15巻セット・1巻45分）
八巻 俊雄　三〇〇〇〇〇円
○＊財務会計 （VHS15巻セット・1巻45分）
若杉 明　三〇〇〇〇〇円
○人のフォルム （VHS全1巻45分）
佐藤忠良　二〇〇〇〇〇円
○火山・桜島 （VHS全1巻45分）
加茂 幸介　二〇〇〇〇〇円
○免疫と人間 （VHS全1巻45分）
山村 雄一　二〇〇〇〇〇円
○細胞融合 （VHS全1巻45分）
岡田 善雄　二〇〇〇〇〇円

○避難の科学　（VHS全1巻45分）　梶　秀樹　二〇〇〇〇円
○南太平洋の人々　（VHS全1巻45分）　石川　栄吉　二〇〇〇〇円
○細胞の世界　（VHS全1巻45分）　山科　正平　二〇〇〇〇円
○フランス文学散歩　（VHS全1巻45分）　福井　芳男　二〇〇〇〇円
○ガンダーラ―文化の受信と発信―　（VHS全1巻45分）　西川　幸治　二〇〇〇〇円

■早稲田大学出版部

エピソード早稲田大学125話　奥島・木村監修　一五〇〇円
国家的不当労働行為論―国鉄民営化批判の法理―　佐藤　昭夫　二五七五円
家族時間と産業時間　T・ハレーブン／正岡寛司監訳　七九三一円
スイス民話集成〈スイス文学叢書6〉　スイス文学研究会編　四九四四円
国民と行政〈行政の理論1〉　片岡　寛光　二五七五円
早稲田文学　5月号～10月号　早稲田文学会　各五三〇円
エレクトロニクスと材料　全5巻　犬塚直夫・伊藤糾次編
3　薄膜成長の話　犬塚直夫・高井裕司　二五〇〇円
5　薄膜のプロセッシング　井上　知泰　二五〇〇円
エリザベス朝喜劇10選　全10巻完結　大井邦雄監修
第7巻　エピシーンまたの名無口な妻　B・ジョンソン／岡崎凉子訳　一四四二円
源氏物語資料影印集成　全12巻　中野幸一編
第5巻　明星抄　一～五　一五四五〇円
第6巻　明星抄　六～十　一五四五〇円
第7巻　明星抄　十一～十五　一五四五〇円
第8巻　明星抄　十六～二十　一五四五〇円
第9巻　雅語纂解　一五四五〇円
第10巻　おさな源氏・源氏物語大意　一五四五〇円
早稲田大学蔵資料影印叢書　国書篇全32巻
第17巻　軍記物語集　日下力編　一五四五〇円
第26巻　歌舞伎台帳集二　菊池明編　一五四五〇円

■名古屋大学出版会

不如歸の時代―水底の漱石と青年たち―　藤井　淑禎　二八八四円
中国の経済改革と企業管理―国際経済摩擦研究叢書4―　任　文俠　二五七五円
国際化と地域経済―これからの東海経済　真継　隆他編　三二九六円
環太平洋経済の発展と構造調整―名古屋大学経済構造研究センター叢書1―　木下　宗七編　四一二〇円
産業組織論の新展開　小西　唯雄編　二八八四円
ケネーからスラッファへ―忘れえぬ経済学者たち―　菱山　泉　二八八四円
歴史家たち―Visions of History―　トムスン他／近藤和彦他訳　三〇九〇円
現代日本語コース中級Ⅱ録音テープ　名古屋大学総合言語センター日本語学科編　五一五〇円
細胞診の基礎と応用―臨床検査技師・細胞検査士になるために―　田嶋　基男他編　八二四〇円
アジアの日系企業と技術移転―名古屋大学経済構造研究センター叢書2―　小川　英次他編　二二六六円
多変量解析による臨床研究―比例ハザードモデルとロジスティックモデルの解説とSASプログラム―　浜島　信之　四六三五円
ハイデガーとナチズム　V・ファリアス／山本　尤訳　四四二九円

■大阪経済法科大学出版部

大阪経済法科大学アジアフォーラム〈3号〉
「発展するアジア経済」　アジア研究所編　六一八円

■関西大学出版部

土星びとの歌―ヴェルレーヌ評伝―　山村嘉己　三六〇五円
幼児の知的発達　松村暢隆　四五〇〇円
令集解―官位令　職員令―語句索引　奥村郁三・薗田香融共編　六五〇〇円
「経営情報システム論」の展開　中辻卯一　五〇〇〇円
日本の賃金構造と賃金決定機構―年功賃金制度の吟味―　川野　廣　九六〇〇円
ヘンリー・ジェイムズ『ニューヨーク版』序文集　多田敏男　六〇〇〇円

■九州大学出版会

アメリカ法における人的管轄権の展開〈北九州大学法政叢書9〉　坂本　正光　三二九六円
シェイクスピア熟年期の七悲劇　高月　麗子　二〇六〇円
ロバート・フロストの世界　中条　愛子　二〇六〇円
日本経済論―低成長期の構造的分析―　秋山　喜文　二五七五円
高血圧の健康処方―運動・栄養・生活を考える―　徳永幹雄・川崎晃一編　二八八四円
ゲームと情報の経済分析Ⅰ　E・ラスムセン／細江・村田・有定訳　三二九六円
『パンセ』における声　末松　壽　二二六六円
ドイツ手工業者とナチズム　鎗田　英三　四一二〇円
芸術工学概論　吉武泰水編　二五七五円
障害児教育総説　山下　功編　二四七二円

経済情報管理の基礎〈経済工学シリーズ〉　時永　祥三　三六〇五円
国民所得論〈経済工学シリーズ〉　武野　秀樹　三二九六円
クモの学名と和名―その語源と解説―　八木沼健夫・平嶋義宏・大熊千代子　六一八〇円

●あとがき――

「大学出版」の第10号をお届けする。

現在、大学出版部協会には十九大学が加盟している。傘下の大学数も加えると五十三大学になる。大学数の約十％あまり。大学の研究・教育・啓蒙にわたる機能に出版を通じて参加するという大学出版部運動もようやく地に着いた感がしないでもない。それだけにこの「大学出版」の役割も決して小さなものではないと自負している。

今年の総会は、四月二十七日（金）三時からアルカディア市ヶ谷（私学会館）で行われ、十六大学二十五名が参加した。

議事は、山田幹事長の開会挨拶があり、そのあと小野沢幹事を議長に選出して議事に入った。

一九八九年度事業報告について、まず山下副幹事長より全般報告があり、引き続いて総務・編集・営業・国際・刊行助成など各担当幹事よりそれぞれ活動報告があって承認された。

八九年度決算報告および監査報告については、棟尾、山国両幹事より報告が行われ承認された。

九〇年度事業計画案につき、各担当幹事よりそれぞれ活動方針が発表され承認された。また、五月に北京で開催される日本大学出版物展覧会および訪中代表団について山下副幹事長より報告があった。

九〇年度予算案につき、棟尾幹事より提示があり承認された。

京都大学学術出版会の入会申込について、名古屋大学出版会の後藤郁夫氏より推薦提案があり、承認された。

九〇年度役員改選について、幹事会案が提示され承認された。

以上にて閉会とし、引き続いて一七時三〇分より同会館別室にて懇親会を行った。（出席者六九名）

なお懇親会において、新入会の京都大学学術出版会理事長の藤沢令夫氏と協会担当の八木俊樹氏が紹介され、オブザーバーとして聖学院大学出版会の山本俊明氏が出席した。

（編集部会担当幹事　関野利之）

一九九〇年度大学出版部協会役員（一九九〇年六月三十日現在）

幹事長	山田　渉	（東海大学出版会）
副幹事長	山下　正	（東京大学出版会）
幹　事	加藤千曼樹	（東海大学出版会）
〃	朝武清実	（東京電機大学出版局）
〃	三浦邦宏	（明星大学出版部）
〃	小野沢公男	（産能大学出版部）
〃	関野利之	（玉川大学出版部）
〃	阿部好文	（法政大学出版局）
〃	矢野昭造	（放送大学教育振興会）
〃	赤川三郎	（中央大学出版部）
〃	城下幸雄	（早稲田大学出版部）
〃	山下　正	（東京大学出版会）
監　事	山国　顕	（慶應通信）
常任顧問	石井和夫	（東京大学出版会）
（日生財団担当主幹）		
顧　問	中平千三郎	（東京大学出版会）
〃	箕輪成男	（神奈川大学）
〃	田口迪太郎	（玉川百科刊行会）
編集部会（部会長）	根本好男	（産能大学出版部）
〃（副部会長）	成田隆昌	（玉川大学出版部）
営業部会（部会長）	惣塚一雄	（東京大学出版会）
〃（副部会長）	松岡茂和	（東海大学出版会）
〃（〃）	鎌田靖彦	（法政大学出版局）
〃（〃）	唐沢幹雄	（早稲田大学出版部）
刊行助成部会（部会長）	山下　正	（東京大学出版会）
国際担当委員	中陣隆夫	（東海大学出版会）
〃	山口雅己	（東京大学出版会）

ISSN 0913-3305

大学出版部協会加盟出版部一覧

北海道大学図書刊行会	〒060 札幌市北区北８条西８丁目 クラーク会館 TEL. 011-747-2308 FAX. 011-758-4071
慶應通信	〒108 東京都港区三田２－19－30 TEL. 03-451-3584 FAX. 03-451-3122
産能大学出版部	〒152 東京都目黒区自由が丘２-16-５ 自由が丘サンビル TEL. 03-724-9101 FAX. 03-717-4346
玉川大学出版部	〒194 東京都町田市玉川学園６－１－１ TEL. 0427-28-3213 FAX. 0427-28-3218
中央大学出版部	〒192-03 東京都八王子市東中野742－１ TEL. 0426-74-2351 FAX. 0426-74-2354
東海大学出版会	〒160 東京都新宿区新宿３－27－４ 新宿東海ビル TEL. 03-356-1541 FAX. 03-341-1833
東京大学出版会	〒113 東京都文京区本郷７－３－１ 東京大学構内 TEL. 03-811-8814 FAX. 03-812-6958
東京電機大学出版局	〒101 東京都千代田区神田錦町２－２ TEL. 03-294-1551 FAX. 03-294-2807
東京農業大学出版会	〒156 東京都世田谷区桜丘１－１－１ TEL. 03-420-2131 FAX. 03-706-8851(総務課)
東京理科大学出版会	〒162 東京都新宿区若宮町19 TEL. 03-260-4271 FAX. 03-260-4294
法政大学出版局	〒102 東京都千代田区富士見２－17－１ TEL. 03-237-1731 FAX. 03-237-8899
放送大学教育振興会	〒105 東京都港区虎ノ門１－14－１ 郵政互助会琴平ビル４F TEL. 03-502-2750 FAX. 03-592-2482
明星大学出版部	〒191 東京都日野市程久保２－１－１ TEL. 0425-91-5115 FAX. 0425-93-0192
早稲田大学出版部	〒169 東京都新宿区戸塚町１－103 TEL. 03-203-1551 FAX. 03-207-0406
名古屋大学出版会	〒464-01 名古屋市千種区不老町１ 名古屋大学構内 TEL. 052-781-5027 FAX. 052-781-0697
大阪経済法科大学出版部	〒581 大阪府八尾市楽音寺６－10 TEL. 0729-41-8211 FAX. 0729-41-9979
関西大学出版部	〒564 吹田市山手町３－３－35 関西大学会館 TEL. 06-388-1121 FAX. 06-330-3718
九州大学出版会	〒812 福岡市東区箱崎７－１－146 九州大学構内 TEL. 092-641-0515 FAX. 092-641-0172

大学出版(第10号)'90秋 平成２年12月10日発行 発行者 大学出版部協会幹事長 山田 渉
〒113 東京都文京区本郷７丁目３番１号東大構内 東京大学出版会内 電話 03-812-2111 (内)7954
頒布価格100円(本体97円)〒共